



年頭所感

独立行政法人福祉医療機構

理事長 中村 裕一

なかむら ひろかず ●プロフィール

1954年東京都出身。77年東京大学教養学部国際関係論分科卒業。同年、三菱信託銀行株式会社入行。05年三菱信託銀行株式会社執行役員。07年三菱UFJ信託銀行株式会社理事。10年三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社常勤監査役。14年菱進ホールディングス株式会社取締役社長。83年シカゴ大学MBA。



新年明けましておめでとうございます。令和3年の新春は、旧年中の新型コロナウイルス禍を振り返らざるを得ません。昨年、中国における「病原体が特定されていない、原因不明の肺炎の流行」のニュースから始まり、その後、武漢からのチャーター便受け入れがあり、2月には、ダイヤモンド・プリンセス号の横浜入港がありました。新型コロナウイルス(COVID-19)の出現は、未知の感染症との遭遇でした。個人の健康・生命への脅威、並びに、社会・経済への脅威も未知数でした。

機構役員には、「福祉医療基盤を確りと支え続ける」という強い気持ちで、業務に臨んでまいりました。本件での機構の初動は2月でした。福祉医療の民間事業者の方への、金融支援体制を整えました。対応の手法は2種類です。①新規資金としての「経営資金」の提供と、②既存融資先についての「返済猶予」の受付です。

また、福祉医療施設の資金繰りの「窮境状況の更なる進行」に対し、4月・6月の、第1次・2次の補正予算において、融資の「無利息枠」、「無担保枠」を都度増強して参りました。経営資金供給の支援実績は、9月末で1兆円強、件数では2万件弱となりました。

独立行政法人の使命は、その機能の発揮を通じて、「国民生活の安定と社会・経済の健全な発展に資すること」です。(独立行政法人通則法)

旧年中は、機構総力をあげて、「貸付事業の機能」を最大限発揮することに注力いたしました。福祉医療施設の資金繰り逼迫の緩和を通じ、微力ながら、「国民生活の安定」に向けて力を発揮できたと思っております。冬を迎え感染者が増加しています。欧米でも同様であり、備えは怠りません。

機構は、その運営哲学に「永続する進化」を掲げております。生み出されつつある「新たな社会・経済」のなかでも、福祉医療分野での活動を通じ、「国の課題解決」に貢献して参ります。

CONTENTS

1 ● 年頭所感

独立行政法人福祉医療機構 理事長 中村 裕一

2 ● 特集/新春座談会

“ウィズコロナ”時代の法人経営

10 ● 福祉・医療最前線

人が直につながり、支えあい、ともに暮らすまち

—石川県金沢市・社会福祉法人佛子園 share 金沢—

14 ● いいききチャレンジ

多機関が連携し、生きづらさを抱えた子どもたちに寄り添う
—東京都葛飾区・特定非営利活動法人ハーフタイム—

18 ● トラブルに学ぶ リスク対策

19 ● コミュニケーション向上委員会

20 ● WAMレポート

新型コロナウイルス感染症の影響等に関する特別調査の結果について

28 ● WAMゼミナール

社会福祉法人の経営ガイド⑩

30 ● 勤どころ経営講座

介護分野のエビデンス④…田宮 菜奈子

32 ● マネジメントQ&A

33 ● みんなで考える子供の未来!

34 ● Information Box

独立行政法人福祉医療機構 新型コロナウイルスの感染により事業停止等となった事業者に対する福祉医療貸付事業の対応について/独立行政法人福祉医療機構 障害者扶養共済制度